

科目名	生物系薬学要説			ナンバリング	561080	授業形態	講義
対象学年	6 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	片桐拓也	担当教員	村田和子、奈良武司				

授業の概要	これまで学んできた生物学的事象について、疑問点を解決し、知識を定着させ、理解を更に深めることにより、医療系薬学を身につけるための基盤を確固たるものにする。合わせて、将来、「率先して地域住民の健康を守る薬剤師」として医療・医科学の発展に貢献するうえで必要な高度な生物学的知識と応用力を修得する。						
到達目標	将来、「率先して地域住民の健康を守る薬剤師」として医療・医科学の発展に貢献するうえで必要な細胞分子生物学、機能形態学、免疫学、微生物学などの精確な生物学的知識と応用力を修得する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	本教科は6年次の科目であるので、与えられた演習問題を丁寧に解答・解析し、更に周辺領域を含めて復習することにより、理解度を薬剤師国家試験合格レベル以上に高めるように意識すること。そうすれば薬剤師として医療に貢献するための十分な知識と応用力を生物学を基盤として獲得できたことになる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
		5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
各担当教員の講義あるいはその領域の演習問題の理解度を確認するテストを行ない、全体として正答率60%以上を合格とする。	専門用語の理解だけでなく、それをを用いて生命現象ならびにその調節機構を論理的に述べることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					80%
宿題・授業外レポート		○	○				10%
授業態度・授業への参加				○			10%

課題、評価のフィードバック	すべての領域において、期末試験答案は学生が閲覧して疑問点を教員に質問できるようにしておく。また、各担当教員が、その領域の期末試験における正答率の低い学生に対して、理解度を高めるための補充講義を行なう。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	免疫応答の制御と破綻①（村田）	「免疫不全症」に関する講義・演習・解答解説	SBO:E2-(2)-2-3,4,5
	第2回	免疫応答の制御と破綻②（村田）	「移植免疫、腫瘍免疫」に関する講義・演習・解答解説	SBO:E2-(2)-2-9
	第3回	遺伝情報のセントラルドグマ（奈良）	「遺伝情報のセントラルドグマ」に関する講義・演習・解答解説	SBO:ア-C6-⑤-1～3
	第4回	遺伝子工学の技術（奈良）	「遺伝子工学の技術」に関する講義・演習・解答解説	SBO:ア-C6-⑧-10
	第5回	生体物質の代謝系（奈良）	「生体物質の代謝系」に関する講義・演習・解答解説	SBO:E1-(1)-1-8
	第6回	シグナル伝達による細胞機能の調節（片桐）	「細胞内シグナル伝達による細胞機能の調節」に関する講義・演習・解答解説	SBO:ア-C1-⑦-1, 2
	第7回	遺伝子の複製、転写と翻訳（片桐）	「遺伝子の複製、転写と翻訳」に関する講義・演習・解答解説	SBO:ア-C1-⑦-1, 2
	第8回	生体におけるエネルギー産生（片桐）	「生体物質の代謝とエネルギー産生」に関する講義・演習・解答解説	SBO:E1-(1)-1-8
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			
授業の進め方		各担当教員の講義あるいはその領域の演習問題の理解度を確認するテストを行ない、全体として正答率60%以上の者を合格とする。評価の観点としては、専門用語の理解だけでなく、それを用いて生命現象ならびにその調節機構を論理的に述べることができるか否かも含めるものとする。		
授業外学習の指示		本教科は6年次の科目であるので、与えられた演習問題を丁寧に解答・解析し、更に周辺領域を含めて復習すること （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	既に使用した各講義科目テーマに相当する教科書を利用する。
参考書	既に使用した各講義科目テーマに相当する教科書を利用する。
参考URLなど	
その他	【基本的資質：⑨薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。アドバンスト:50% 準備教育:0%, 大学独自:0%】